

過疎地域における関係人口を増やすための公開アイデアソンin五箇山



北陸情報通信協議会G空間×ICTまちづくり推進部会（部会長：飯島泰裕金沢大学客員教授）は、令和6年6月19日（水）～20日（木）の2日間、富山県南砺市の五箇山荘で開催された、テレコムサービス協会北陸支部主催の公開アイデアソンに大藪副部会長と事務局（北陸総合通信局情報通信振興課）1名が参加しました。

このアイデアソンは、令和5年12月に開催された「第10回G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール（HIT2023と共催）」において、「ICTまちづくり賞」を受賞した「TY3の会」のアイデア「過疎地域支援サービス」の具現化に向けたプランの作成を目指したものであり、「過疎地域における関係人口の増加」というテーマについて、テレコムサービス協会の関東支部、信越支部、五箇山の地元関係者も参加し、様々なアイデアが出されました。



冒頭、インプットセミナーでは、大藪副部会長から観光産業の成功に向けて住民の理解と姉妹都市・友好都市の有効性、観光客・外国人に向けた災害対策が必要であると述べられました。

また、TY3の会の吉川氏と外谷氏から過疎支援サービスとして、過疎地域の魅力を発信することで関係人口の増加と持続可能な住み続けられるまちづくりについて報告があり、南砺市観光協会の河合氏から、南砺市の特色、文化遺産や伝統、観光施策について紹介がありました。

このセミナーの後、3グループに分かれワークショップが行われました。



ワークショップの様相

主なプログラム

◆インプットセミナー

1 「関係人口と観光DXによる持続可能な地方構築」
G空間部会 副部会長 大藪 多可志氏

2 「過疎支援サービス」
TY3の会

3 「南砺市の観光施策について」
南砺市観光協会 城端支部 河合 常晴氏

◆ワークショップ

3グループで実施

◆まとめ発表



大藪副部会長の講演

※本イベントの主催者であるテレコムサービス協会北陸支部のアイ・オー・データ機器 乙村氏、情報流通経済研究所 金平氏はG空間部会の構成員。